

「日々の理科」(第 2439 号) 2021, -3, 16

「早春の高尾山紀行 (最終回)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

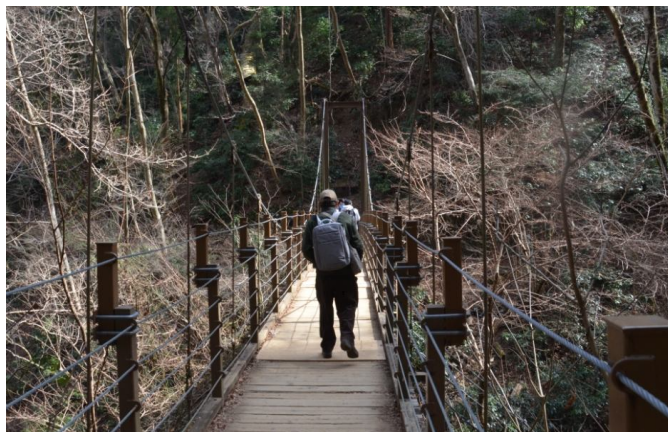
高尾山の良い点の一つは、ルートの変数が豊富なことだろう。登り下りとも、複数のルートを選んで、行きと帰り、また複数回の山行でも飽きることがない。同時に、多様な自然を観察できる。



帰りは山頂直下から「4号路」を選んだ。入口が少しわかりにくいので、大きな横断幕が掲示してあって有難い。まるで、トレイルランニング選手権のスタート地点のような雰囲気だ。「よっしゃー！下山するぞー！」と気合が入る横断幕だ。しかも「すべりやすい山道」と注意書きまである。雨のあとなどは、実際に滑りやすいのだろう。中高年登山は特に注意しよう。



4号路は高尾山の北側斜面に沿った道である。この日は路面も乾いていて歩きやすかった。登りで使う人は稀で、ほとんどは下山路として使われているようだ。不思議なことに、3号路にはあれだけあったキジョランが、4号路ではほとんど見られなかった。



4号路の楽しみの一つは「吊り橋」だろう。安全とわかっていても、ゆれる橋というのは高度感とスリルがある。木の踏板もやや老朽化して雰囲気満点だ。



露木先生は昆虫や植物に詳しいが、私は菌類に少し強い。露木先生に「これは何という名前でしたっけ？」と逆に問うたら、即座に「カワラタケ」と返ってきた。抜群の記憶力だ。正確には「アラゲカワラタケ」だ。



最初から「軟弱登山」と決め込んでいるので、最後はリフトに乗った。ケーブルカーの往復券でリフトにも乗れるのだ。もちろん下りのほうが景色も良く、登りよりも下りのほうが利用者も多い。ケーブルとちがって待ち時間がないのも有難い。早春の高尾山――実に学びの多い、第一等の日だった。(おわり)